



最優秀賞 「麦畑でみちくさ」

小野寺 三彦さん 岩手県

集落での暮らしや農作業、災害など、現代の農業・農村や農家の姿などをテーマにした写真を募集する農業共済新聞主催の第47回「新・日本の農村」写真コンテストの審査会（審査委員長・尾辻弥寿雄氏、日本写真家協会会員、日本リアリズム写真集団会員）がこのほど開かれ、各賞の受賞者が決定した。応募総数189点（応募者数89人）の中から、最優秀賞（賞金10万円と盾）には、小野寺三彦さん（岩手県）の「麦畑でみちくさ」、金賞（賞金5万円と盾）には神保吉数さん（北海道）の「遅れたビートの収穫」が選ばれた。銅賞までの上位入賞作品を紹介する。

第47回「新・日本の農村」写真コンテスト 入選者

最優秀賞	小野寺 三彦	岩手県	麦畑でみちくさ
金賞	神保 吉数	北海道	遅れたビートの収穫
銀賞	浜口 正雄	三重県	夏日
銀賞	川崎 信義	長崎県	棚田を走る長崎新幹線
銅賞	本田 一浩	福島県	一緒に遊ぼう！
銅賞	柏館 光子	福島県	笑顔の大根洗い
銅賞	末廣 周三	福岡県	里山の春
銅賞	後田 ゆみ	長崎県	見上げると～影絵の世界～
佳作	村上 吉秋	岩手県	愛しの家族
佳作	菊地 一男	秋田県	防災対策
佳作	相楽 執一	福島県	雪は天からの宝物
佳作	村上 敏幸	山梨県	雪化粧
佳作	酒居 誠	新潟県	神をかんじて
佳作	荻山 清和	岐阜県	アグリロード
佳作	田中 巧	静岡県	かがり火に願う「五穀豊穡」
佳作	出口 芳男	三重県	お手伝い
佳作	白木 勇治	京都府	泥んこラグビー
佳作	松原 幹夫	鳥取県	白いじゅうたん
佳作	藤森 保男	岡山県	収穫
佳作	ひとみかつみ	岡山県	田植え
佳作	斎藤 孝子	岡山県	仲良く桃の摘花作業
佳作	井上 勉	愛媛県	作業を終えて
佳作	井上 雄次	愛媛県	遊子の段々畑
佳作	廣田 豊	福岡県	全員集合
佳作	中村 博	福岡県	干し大根
佳作	水島 智子	福岡県	池一面に咲く
佳作	吉田 隆	長崎県	急げ陽が昇る前に
佳作	中村 進之介	宮崎県	愛でる

銀賞

「夏日」

浜口 正雄さん 三重県



銀賞

「棚田を走る長崎新幹線」

川崎 信義さん 長崎県

第47回 「新・日本の農村」写真コンテスト

金賞

「遅れたビートの収穫」

神保 吉数さん 北海道



総評

昨年まで多数の応募があったコンテストマニアの作品が激減し、総点数が減りました。しかし、農に関心がありこのコンテストのテーマをしっかりと意識した作品が多く寄せられました。一般的な写真コンテストと大きな違いである「新・日本の農村」をどう理解し映像化するのかなど、明確な作品づくりが柱となってきました。

今回の特徴の一つに、子どもを被写体にした写真が多く見受けられました。そこには、形や色、愛情や絆など子どもを包み込む感情がしっかりと写されています。一方、年々増える組み写真はほとんど「組む」ことの理解と修練

審査講評

尾辻 弥寿雄

日本写真家協会会員
日本リアリズム写真集団会員

個別評

「一緒に遊ぼう！」
が浅く、単写真だと上位に輝いた作品もありました。全く違う写真を複数並べること、テーマを掘り下げ浮き彫りにする表現が組み写真です。写真を組み合わせた時に、意識することが大切です。その意識が薄く絵柄の良さだけが先行すると弱くなります。さらにこのコンテストでは、被写体やテーマに社会性と映像的な美しさの両方が備わっていないと上位には食い込めなくなりました。最優秀賞に輝いた「麦畑でみちくさ」は親子の表情の良さもあ

「里山の春」
が浅く、単写真だと上位に輝いた作品もありました。全く違う写真を複数並べること、テーマを掘り下げ浮き彫りにする表現が組み写真です。写真を組み合わせた時に、意識することが大切です。その意識が薄く絵柄の良さだけが先行すると弱くなります。さらにこのコンテストでは、被写体やテーマに社会性と映像的な美しさの両方が備わっていないと上位には食い込めなくなりました。最優秀賞に輝いた「麦畑でみちくさ」は親子の表情の良さもあ

「笑顔の大根洗い」
雪の山を前面に出し上部に重機を配することで、農は自然との格闘であることを実感させます。

「見上げると〜影絵の世界〜」
二ノノを自分の視点で理解し映像化する思考力の勝利です。作者の視点はこのコンテストのテーマがシンクロした証しです。

「一緒に遊ぼう！」
子どもと牛、ともにまだまだ赤ちゃんの域を抜け出ていません。そんな幼さと好奇心が前面に出てほほえましい作品となっています。子どもが口を開いて声をかけているように見え、子牛の伸ばした首と輝く目が写真を引き締め倒す存在感が素晴らしい。昔前の農村では考えられない風景です。まさに「新・日本の農村」風景です。

「笑顔の大根洗い」
細部まで神経を行き届かせた作者の観察力が光ります。

銅賞

「里山の春」

末廣 周三さん 福岡県



銅賞

「見上げると〜影絵の世界〜」

後田 ゆみさん 長崎県



銅賞

「一緒に遊ぼう！」

本田 一浩さん 福島県



銅賞

「笑顔の大根洗い」

柏舘 光子さん 福島県



「見上げると〜影絵の世界〜」
柿の収穫風景を影絵と見た作者の感性がいい。光を通さない樹や柿の実、それと人物はシルエットになり、光を通す葉や網は美しい色を見せています。この光の細かいパラメータが作品に幅を持たせ、自然が作り出す不思議な時間帯が写し止められています。

「一緒に遊ぼう！」
子どもと牛、ともにまだまだ赤ちゃんの域を抜け出ていません。そんな幼さと好奇心が前面に出てほほえましい作品となっています。子どもが口を開いて声をかけているように見え、子牛の伸ばした首と輝く目が写真を引き締め倒す存在感が素晴らしい。昔前の農村では考えられない風景です。まさに「新・日本の農村」風景です。

「笑顔の大根洗い」
細部まで神経を行き届かせた作者の観察力が光ります。

「里山の春」
雪の山を前面に出し上部に重機を配することで、農は自然との格闘であることを実感させます。

「麦畑でみちくさ」
親子の表情の良さもあ